

## 教育・子育て・生涯学習部会の活動記録

### 1 はじめに

平成7年5月20日に、青葉区民会議が、160名の参加者を得て、産声を上げました。私達は、「区民会議」って何?の疑念を抱きながら霧の中に舟出して行きました。新しく誕生した故に、区民会議には、確立された手法も、模範となるような類似の制度もなく、試行錯誤を重ねながら、常に新しい工夫や、改善をくり返し、時代の変化に即応していかなばと覚悟を決め、取組むことにしました。

### 2 部会活動についての報告

当部会は、総数26名の参加者でスタートいたしました。何分全て新分野からスタートするために、部会の名前をどう言う名前にするかが問題となります。部員の真剣な討議からいろいろと意見が出され、それらを集約すれば、現状の教育界を見渡すと、数えきれない程の問題が提起されており、放置できない状態となっている。いじめ問題、幼稚園、保育所の不足、乳幼児の医療費の問題、障害児の問題などなど検討を重ねました。そこで、教育問題を中心に、取り組むこと、また核家族化が進んで、「子育て」で悩み苦しんでいる若いお母さんたちを何とか支援しようと、「子育て」問題に取り組むことになり、「教育・子育て」に決定を見る。一方では、現状の生涯学習について、調査・研究をする必要があるとの結論に達しました。新生青葉区、明るい学問あふれる生き生きとした街づくりを目指して、微力ながらも問題解決に、区民と行政とのパートナーシップのもと常に新しい工夫や改善を求め、創造していくことを誓い、キャッチフレーズに「区民が生き生きと学ぶ街づくり」を合言葉に「教育・子育て・生涯学習部会」としてスタート致しました。

当部会で、テーマが大変広範囲に及ぶ問題が、あまりにも多く、大別しても①乳児対策 ②小中学生対策 ③成人対策と多岐にわたり、それぞれ1テーマに絞り込むことは至難の業と考えられる。そこで分科会方式を導入して、より組織的、専門的に調査・研究・発表を行うことになり、①教育・子育て分科会と②生涯学習分科会に分けて、活動して行くことになりました。活動の手順として、「教育・子育て」分科会では、毎月1テーマにしばらく勉強会を行い、お互いに知識を広め、現状を正確に把握して、区民一人一人の声として区政に要望、提案して行くことになりました。各委員と討議の結果毎月のテーマは、①幼稚園、保育園の現状について ②いじめの問題について ③子育て支援について ④学童保育の問題 ⑤少年の不良化防止について

⑥子どもの健全育成は地域のふれあいで ⑦障害児支援について ⑧母子家庭支援について ⑨乳幼児医療費の無料化の延長の問題、の計9項目が設定され、これからテーマに沿って各自が資料を集めて研究を行って行く。

「生涯学習分科会は、①地域センターなどの施設の使い勝手を検討し、行政に提起する。②地域振興課や地区センターなど、行政サイドで行う学習メニューについて調査・研究して、行政に提案する。③各種の学習メニューの実態調査を行う。④区民に対するPRの方法改善要望。⑤各種メニューの立案者について改善要望。⑥文化、コミュニティ部会と調整を行う。などが討議され、活動にはいることになった。



第21回部会

### 3 「教育・子育て・生涯学習」部会の平成8年度予算に対する要望・提案

- ①乳幼児医療費助成を5才児まで延長してほしい。
- ②保育園の増設、定員増や保育時間の延長と、保育料金の軽減をしてほしい。
- ③中学校給食を実施してほしい。
- ④市営の学童保育所を整備してほしい。

### 平成9年度予算に対する要望・提案

- ①区民会議ニュースを全戸配布する。
- ②現状の区役所の出張所のサービス業務を拡大する。
- ③障害者のリハビリステーションと授業施設の設置。
- ④障害児と健常者が同一校で学ぶ場合、その介助者の費用を援助する。
- ⑤全認可保育所で産休明けからの保育を開始する。
- ⑥長時間保育可能な公立幼稚園の設置。
- ⑦母子家庭のための母子寮の新設。

⑧不登校児の受入施設の設置。

⑨カウンセリングを伴う養護室を校内に。職員がいても生徒が気軽に出入りできるサロン風な部屋が理想。

⑩乳幼児の国保・健保加入者のみ対象の医療費無料化を所得制限なしで就学まで延長。

⑪学童保育とはまっこふれあいスクールの連携化。

⑫各地区センターの年間の自主事業の一覧表を作成し、公表してほしい。

⑬生涯学級の補助金制度の公開及び公募。

⑭コミュニティスクールのために全校開放を要望する。

⑮青少年非行防止のため地域で活動する人に権限を与え、活動強化をはかる。

### 4 青葉区民会議街づくり連続公開講座(第3回)の実施

日 時:平成8年11月30日(土)

午後1時30分から4時

会 場:山内地区センター

テーマ:「子どもと家庭を考える」

～子どもの心が育つ家庭とは～

講 師:小林 鑑治(元横浜教育センター所長)

#### ◎講演要旨◎

21世紀を背負って立つ児童を、心身共に健全な子どもに育成するということから、私たちは今、家庭・学校・地域社会からの観点に立って、絶えず努力しなければならない。家庭環境では、少子化、核家族化が進み、また母親の就労などにより、家庭教育機能に影響し、家族の人間関係が稀薄になりがちです。家庭では子どもの相手がTV、ファミコンであり、お金が与えられ、子育ての機能が弱体化されています。学校では、知、徳、体の調和をはかって教育を行っているが、進学競争、知育偏重になりがちである。地域社会では、都市化により、遊び場が減少し、一人遊び、同年齢間の遊びが多くなり、異年齢間の遊びが少ない、児童、生徒の問題として、不登校、いじめを始め非社会問題行動、薬、シンナー問題など看過し出来ないものがある。これらを考えると「心の教育」こそが誠に重大な問題として、浮上して参ります。「心の時代の教育」が求められているのです。

### 5 区民会議に参加して

藤島 栄子

区民会議、当部会に参加をして初めてのことで、何をしてもいいのか戸惑い、資料集め・調査を進めていくうちに、多種多様な学習会が数多く行われていることを知りました。自分なりの生涯学習として学びたい、

参加したいと思えば、身近なところでもできるし、自分自身が中心になって、輪を広げることもできるのです。それが、一部でしか知られていない現状と、より多くの情報を自分の生涯の学習の場として、身近に知るにはどのようにすればいいのか勉強することができました。なんとなく部会の方向が軌道に乗りかけてきたところですが、進めぬまま任期が終わろうとしています。

私自身は、この2年間が子育てでも終わって自分のための時間を生涯学習の場としてどう過ごしたらいいのか、入口に立ったところのように思います。同じような仲間に出会えていろいろ勉強ができたこと、今までに、経験し得なかった新しい形態の「区民会議」に参加できたこと、それらを基に一步一步前進することが私の生涯学習の場となりそうです。

区民会議に参加して思うこと

上村 泰子

第1期区民会議は、青葉区誕生の翌年から始まりましたので、区民の声が反映できるのではと、期待に胸を膨らましなが出席しました。第1期においては、身近な問題を5部会で取り組みましたが、私の所属する生涯学習分科会では、まず「生涯学習」とは、という言葉の受け止め方が非常に漠然としてしぼりきれずに苦勞しました。議論しては後戻り、何度も振出しに戻り何ら成果らしいことは残せませんでした。反省として、身近な問題ですけれど、最初に「区民会議」とはどんな会議なのかの、位置付けがなく、そして、我々が求める「区民会議像」を追及し、実現できるように努力を払う必要があると思います。私たちが望むものは、私たちの努力で報われるものもあるという固い信念で、取り組む必要があると思います。今、日本の評価は世界的に低迷し始めています。この時期こそ自信をなくすのではなく、これをバネにして意見をだして、元気で明るい未来につなげられるよう行政にも、関心を示して一緒に頑張りたいと思います。

### 6 おわりに

2年間を振り返りみて

井の中の蛙、大海を知らず、五里霧中で取り組んできました当部会は、各委員の熱き心と互助精神に助けられて、1期が終わりました。勉強会を通じて素晴らしい仲間をたくさん得ることができましたことを、心から感謝申し上げます。至誠通神本当に有難うございました。委員各位の健康を祈りつつ…。 部会長 高橋 正幸



教育・子育て・生涯学習部会 活動一覧表

定例会	開催日時	開催場所	人数	活動内容概要
第1回	H7. 6.10AM	青葉公会堂	13人	①部会役員(部会長、副部会長、書記)の選出、②活動方針の決定 ③部会名称及び部会日程検討。
第2回	H7. 7. 8AM	青葉公会堂	19人	①部会活動の取組 ②「教育・子育て」分科会、③「生涯学習」分科会とする。④連絡網の整備。
第3回	H7. 8. 5AM	山内地区センター	14人	①平成8年度横浜市予算に対する要望と提案検討、5項目提出。
第4回	H7. 9. 9AM	美しが丘地区センター	14人	①教育、子育て分科会、テーマ幼稚園、保育園について討議。②生涯学習分科会、調査結果報告検討(第1回目)。
第5回	H7.10. 7AM	若草台地区センター	12人	①教育、子育て分科会、テーマ青少年の不良化防止について、調査報告検討。②生涯学習分科会、調査結果のまとめ。
第6回	H7.11.11AM	山内地区センター	12人	①教育、子育て分科会、テーマいじめ問題について討議。②生涯学習分科会、PRの問題について討議。
第7回	H7.12. 2AM	若草地区センター	11人	①教育、子育て分科会、テーマ子育て支援について討議。②生涯学習分科会、各種メニューについて討議。
第8回	H8. 1.13AM	山内地区センター	7人	①教育、子育て分科会、テーマ母子家に支援について討議。②生涯学習分科会、コミュニティ部会との交流について検討。
第9回	H8. 2. 3AM	藤が丘地区センター	10人	①教育、子育て分科会、学童保育について討論。②生涯学習分科会、委員の出席率の低下について討議。
第10回	H8. 3. 4AM	青葉公会堂	7人	①教育、子育て分科会、障害児の支援について討論。(合同)
第11回	H8. 4.20AM	山内地区センター	8人	①教育、子育て分科会：テーマ乳幼児医療費の無料化延長について討論。(合同)
第12回	H8. 5.25AM	山内地区センター	7人	①教育、子育て分科会、テーマ子供の健全育成は地域のふれあいについて合同で勉強会。
第13回	H8. 6.15AM	藤が丘地区センター	12人	①平成9年度横浜市予算に対する要望と提案検討及び意見集約(合同)(第1回目)
第14回	H8. 7.13AM	青葉公会堂	7人	①平成9年度横浜市予算に対する要望と提案。15項目目提出
第15回	H8. 7.17AM	山内地区センター	8人	①公開講座について討議。(合同)
第16回	H8. 9.14AM	青葉公会堂	7人	①公開講座講師について討議(合同)
第17回	H8.10. 9AM	藤が丘地区センター	5人	①公開講座の準備。②第1期活動報告書小冊子作成について討議(第1回目)(合同)
第18回	H8.11. 9AM	若葉台地区センター	6人	①公開講座の準備。②小冊子作成日程の討議。(合同)(第2回目)
第19回	H8.10.21AM	藤が丘地区センター	9人	①活動報告書小冊子作成の原稿、資料の討議。(合同)(第3回目)
第20回	H9. 1.11AM	青葉公会堂	9人	①活動報告書小冊子、原稿、資料の準備。(第4回目)
第21回	H9. 2.15AM	若草台地区センター	9人	①活動報告書編成準備討議。(第5回目)(合同)

文化・コミュニティ部会の活動記録

当部会は第1期にどのようなテーマに取り組んだらよいか、2年ほど前に皆で意見を出し合って論議しました。

その結果、あざみ野駅付近に予定されているフォーラム・ギャラリー建設計画へ市民の要望をまとめるグループ、また地域にある文化施設を、もっと活用して豊かな生活ができないだろうかという観点に立って、利用する側からの問題提起、提案をしていこうという第2のグループ、一方ソフトの面から、青葉区らしさを追及したふる里づくりを進めて、人と人との触れ合いを目指すイベントの企画とか、地域活動についての学習、実践、また谷本川流域で具体的な行動をしようという第3のグループ、3つのグループが、お互いのテーマに相互協力しながら、活動を広げてきました。

その間、第1期青葉区民会議の部会運営を考えるためにも、区民会議とは何かとか、何ができるのか、何をすべきなのか、などの委員の率直な疑問に答えるために、部会で集中して勉強会を開催しました。講師には幅広く行政側、街づくりコンサルタント、長年の経験を持つ他区の区民会議の委員、大学教授、東京の区会議員などから意見、情報や貴重なアドバイスを受けたことが、その後の部会運営に大いに役立ちました。

また行政側の支援で実現した施設見学学習会に、積極的に参加して見聞を広めたことも、部会の活動を進めていく上で大変参考になりました。

この2年間の部会活動のなかで青葉区らしさを表現したい、また将来に伝えたいことが出来るようなイベントや行動のきっかけを、第1期の期間の中で作っておきたいというのが大方の当部会委員の共通した意見であり、そのように部会活動をしてきました。

市民ギャラリー・フォーラムのアンケートを実施し、区民まつりで多くの区民に参加してもらい、その結果を整理して横浜市に提出、高い評価を得ることができたこと、また区内の既存の文化施設、スポーツ施設を調査して、利用の現状を把握し、利用者として使うのに不都合な項目を調査、整理して改善の要望を行政に提出したこと、次ページに詳細記載されている通りです。

当部会としては、学習、勉強の成果を部会の外に広げて、区民会議の他の部会との交流、さらに青葉区で自主活動を積極的に推進している数多くのボランティアグループとの人的交流や情報交換を進めており、外部の団体やグループとの共同企画や協調した活動をするまでになってきました。

未来の区民・子どもたちと話そう



分科会風景

平成9年1月25日に青葉公会堂で第4回連続公開講座を当部会の担当で行いました。これは2年間の当部会の行動や勉強したことの集大成として；

「青葉区をふるさとに、住む人々がすてきに輝くために」

・ ・ ・ 地域でいきいきシンポジウム ・ ・ ・

と題して、午前には「自然を生かした街づくり」、「子供の目に映る青葉区」、「青葉区の歴史と伝統」、「おとうさんの地域参加」の4つの分科会を開催、それぞれ活発な意見交換ができました。

公会堂ロビーでは、青葉区内24校の小学生、4校の中学生が描いた「未来の青葉区」・「青葉区自慢」334点の絵の展示を行い、また同時に集められた304編の作文の中から、代表的な作品を「子どもたちからのメッセージ」として発表してもらいました。

同時にロビーで、区内で活躍している自主活動グループの活動内容を紹介するパネル展示が行われました。

この目的は、未来の青葉区をにやう子供の視点を感じながら、世代を超えて対話を試みたこと、また自主活動グループの人たちと一緒に、このイベントを企画し実行することで、区民にも子供たちにも、地域活動の実情を知ってもらいボランティアの心を育ててもらうことでした。

午後には村橋克彦横浜市大教授の「ふるさとづくりにいま、自分たちでできること」と題して基調講演があり、その後「今日から始めよう！地域の活動」をテーマにパネルディスカッションが行われました。それぞれの話題の中に貴重な意見や情報、他区の例などが含まれていて参考になりました。今後この講座の成果を、これからの部会活動に活かしていきたいと思えます。



## ●「施設を考える会」からの活動報告

(市民利用施設について)

1. 横浜市にあるフォーラム(戸塚・ランドマーク)の見学(H7.8)
  - 横浜市立美術館・市民ギャラリーの見学(H7.8)
  - (あざみ野に建設されるフォーラム・ギャラリーの施設の参考にするため説明と運営内容を聞く。)
2. あざみ野に建設される“フォーラム・ギャラリー”についてアンケートを実施した。(配布・回収・集計)
  - ・平成7年11月3日の区民まつりにアンケート用紙を配布した。各地区センターにも用紙を置く。
  - ・アンケート結果の集計報告書は市民局へ提出した。
3. 『市民利用施設を考える』という町づくり講座に参加した。(H7・11・24)
  - ・主に地区センターについて現状の問題点を取り上げ、いろいろな地域の方からの意見交換をした。
  - ・ここでも地区センターの管理運営について利用者の声が反映されていないという意見が多く出た。
4. 町づくり講座『施設見学バスツアー』に参加。(H8.3)
  - (生麦地区センター・上永谷CH・横浜愛泉ホーム)
  - a. 地区センター・コミュニティハウスは職員の考え方(利用者の立場に立った考え方)によって違う。マニュアル通りでなく施設の方の裁量によって融通がきくことがわかった。
  - b. 「例えば」
    - ・1単位(午前、午後、夜間)を利用グループの内容によって2つに分ける事もできる。(生麦)
    - ・青少年の部屋の利用に制限をつけていない。(生麦)マニュアルは親の付添いが必要だそう。
    - ・休館日ではなく、職員の休務日で職員がいなくても前もって鍵を貸して利用できる。(上永谷)
5. コミュニティ部会で施設(瀬谷区にある長屋門公園)を見学した。(H8.5.11)
  - a. 周辺住民への徹底したヒアリングにより設計された公園である。
  - b. 地域住民の中から施設の運営を担うに適した人材が選ばれ、地域の文化と風土を生かした運営がされている。
  - c. 長屋門公園を管理する人の条件…
    - ①人を好きな人
    - ②地域の歴史がわかる人、理解しようとする人
    - ③年間のプログラムができる人
    - ④教育的な配慮のできる人

- ⑤地域の皆様とコミュニケーションができる人
6. 区民会議で施設見学会を実施……当部会からの見学希望施設もあり、部員が多数参加して好評だった。
  - ・7年度(A)宮が瀬ダム、城山ダム(11.29)
  - (B)南部斎場、女性フォーラム・市民ギャラリー(12.9)
  - ・8年度(A)火力発電所、防災センター(8.28)
  - (B)食品工場野菜残渣リサイクル施設 神奈川女性センター(10.17)
7. 平成8年度・9年度部会要望(公共施設に関して)
  - 〈(年度)、表示なしは両年度要望〉
  - a. 区民会議の活動費としての予算を明示する。
  - b. 総合運動場の早期着工。
  - c. 『建設準備委員会』に一般住民、利用者の代表及び区民会議のメンバーを加える
  - d. 大場・奈良地区方面の地区センターの早期建設。(9年度)
  - e. 平成7年4月発足した『区民利用施設協会』に利用者団体の代表を加える。(都筑区、緑区は実施)
  - f. 施設長は公募や推薦とし、その過程も公開する。
  - g. 職員の研修制度を確立してセンター間の情報交換を行い格差が生じないようにする。
  - h. 1年に最低1回は利用者団体の代表を集めて『利用者会議』を開く。(藤が丘地区センターが利用についてのアンケートとセンター祭りに参加した利用者団体を対象に意見交換会を平成9年2月に実施する。)
  - i. 緑インターチェンジの高架下にスポーツ公園をつくらしてほしい。(9年度)
  - j. あざみ野地区に建設されるフォーラム・ギャラリーの早期建設。
  - k. コミュニティハウスの機能充実、住民へのPR不足である。(9年度)
    - ・住民にわかるように施設の門(出入口)に看板を取り付ける。
    - ・利用日、利用時間の再検討。(週2回休館日があると不便である)
  - l. 学校の空き教室を地域住民に開放をする。(9年度)
  - m. 情報の早期公開を……施設建設について利用者の声を反映させるため。

## ●「フォーラム・市民ギャラリー」を考えるグループの活動報告

～住民の声をアンケートにのせて～

『あざみ野駅近くに併設で整備される、市内で2館目の“市民ギャラリー”と3館目の“フォーラム”に関して、基本構想の段階から、利用者(地域住民)の意見を反映させたい』という思いから、アンケートを実施することにしました。

～アンケートの配布＆回収から  
コミュニケーションの輪が広がった～

他部会、当部会の強力なバックアップにより、2,300部配布し、1,251部回収しました。(回収率54.4%)

◎主な配布先(回収は配布した担当者が行う)

- ・区民まつりの場で参加者へ
- ・各地区センター利用者へ
- ・各地区センターまつりの場で参加者へ
- ・区民絵画展で出品者と見学者へ
- ・区、生涯学習支援係主催の北京会議報告会参加者へ
- ・区民会議の各部会員、担当者からグループや個人へ
- ・その他

◎アンケートは14項目の設問と意見・要望・提案の欄

～アンケートの集計から生まれた信頼関係～

1,251人の意見を約2か月で集計できたのは、担当スタッフのチームワークの結集でした。報告書作成作業も順調に進んで……。その間、市民局女性計画推進室主催のヒアリングへも参加し、意見を発表しました。

～「市民ギャラリー・フォーラムに関する  
アンケート集計報告書」を市民局へ提出～

調査の結果を冊子(A4サイズ、34ページ)にして、市民ギャラリーとフォーラムの基本構想を検討している市民局の各部所へ提出しました。

～市民ギャラリー・フォーラムを考える  
“市民のつどい”で意見を発表～

横浜市主催の“市民のつどい”(H8.1.27)で調査の結果からの意見を発表しました。

～2年目に入り活動に拍車かかる～

～また、アンケート実施～

◎アンケート集計報告書は北部方面フォーラム基本構想策定の中で評価され「基本構想で意見をいただいたグループ欄」に部会名が記載される、に至りました。

◎平成8年度に入り、引き続き、市民ギャラリー・フォーラムの具体的な提案をするために、再度アンケートを行うことにしました。

◎施設に関しての細かい提案ができるように、フォーラムの欄は13項目、市民ギャラリーは4項目、共有部分については5項目とし、それぞれの用紙を分けて作成しました。

◎地区センターなどを利用して活動しているグループの指導者や責任者を中心に用紙を配布、回収しました。

～具体的な提案を提出～

各項目、具体的な提案が多く、集計できないので、項目別に整理して、ワープロ化し、絵・図などはそのまま添付し、市民局担当部所へ提出しました。(H8.12月)

～アンケートは部会の貴重な財産～

◇2年をかけての2回の調査は文化・コミュニティ部会の貴重な資料となりました。そして「あざみ野に整備されるこの施設を期待している人が大変多い」ということもわかり、アンケートの実施により住民の関心が高まったのではないかと思います。

◇既存の公的施設についても、ハード面ソフト面から要望、意見などを吸い上げることができ、今後の活動の参考になることでしょう。

◇ご協力いただいた地域の皆様! 区民会議の皆様!

ありがとうございました。





## 青葉区民会議街づくり連続公開講座（全4回）

第1期青葉区民会議は、発足以来、毎月部会を開催し活動してきました。今期後半の活動については、各部会がそれぞれ年間計画を立て、運営委員会に持ち寄りました。この計画の中には、だれにも関心の高いテーマを内容とし、区民にも参加を呼かける講演会の企画がいくつかありました。これらは、講演会を企画した部会を中心に、テーマや講師の依頼、会場の準備などを進め「青葉区民会議街づくり連続公開講座（全4回）」

り連続公開講座」として、多くの区民にも参加を呼かけて、実施することにしました。各回とも、手づくりのチラシを委員が、区内の学校や各種団体に配る等の広報活動を行い、気軽にだれもが参加できる、身近な講演会の開催に努めました。

◎街づくり連続公開講座開催一覧表◎

（下表）：開催日時・会場・講師・講演テーマ・参加者数

回数	開催日時	会場	講師	講演テーマ	参加者数	
1	平成8年8月31日 (土) 18:00~20:30	山内 地区センター	高槻 絹子 浜松医療センター 臨床心理士	ばけの理解と予防について	208名	
2	9月7日 (土) 13:30~16:00	青葉公会堂 会議室	安田 八十五 筑波大学 社会学系助教授	わかりやすいリサイクル	50	
3	11月30日 (土) 13:30~16:00	山内 地区センター	小林 謙治 元横浜市教育センター所長 横浜市立大学講師	子どもの心が育つ家庭とは	78	
4	平成9年1月25日 (土) 10:00~16:00	青葉公会堂	村橋 克彦 横浜市立大学教授	自然を活かした街づくり	22	
			第一分科会	立花 恒平 赤煉瓦ネットワーク事務局長	子どもの目に映る青葉区	54
				嶋田 昌子 横浜シティガイド協会代表	青葉区の歴史と伝統	16
				江幡 千代子 HARの会	お父さんの地域参加	21
			第二部	パネルディスカッション 基調講演 村橋 克彦 横浜市立大学教授 経済研究所所長 パネラー 立花 恒平 嶋田 昌子 江幡 千代子	今日から始めよう地域の活動 いま自分たちでできること	118



## 港北・緑・青葉区民会議交流会

「区民会議の発展のためには、隣接区などとの連携も大切なことです。」こんな思いが、平成7年夏の区民会議代表会議のおり、緑・青葉区で話し合われました。その後、港北区からも参加の希望があり、3区交流へと広がりました。

交流は、各区の代表委員などによる懇談と情報交換を続け、意義ある交流会が開催できるよう、時期・規模・内容などについて話し合いを進めました。その結果、3区に共通するテーマを設けて、各区それぞれ5名程度の参加者による三分科会とまとめた全体会という方式で、翌年7月13日に開催されました。

分科会は、各区の活動状況についての情報や各区で連携した取組みなどについて、熱心な意見交換が行われ、積極的な交流の場となりました。全体会では、各区から都筑区も参加できることを期待して、今後も可能な限り交流会を続けたいとの感想のもとに終了しました。

日時 平成8年7月13日(土)

午後1時30分から4時

会場 山内地区センター

分科会 A会場

テーマ 高齢者・障害者などが安心して暮らせる福祉の街づくり

参加者(青葉区) 9名

B会場

テーマ 災害

を目標

参加者(青葉

C会場

テーマ 青少

いじめ

参加者(青葉

## 施設見学学習会

「第1期青葉区民会議活動要領」の中で、活動内容について「調査や学習、体験などの実践をとおした活動」をうたっている。この趣旨に沿って、部会では調査や学習の施設見学をそれぞれ行ってきました。一方、各部会の活動を続けていく中で、活動テーマの発展を図っていくための部会間交流が検討され、施設見学学習会をとおした体験などの実践活動を部会間交流の一つとして行ってきました。第1期における「施設見学学習会」は、つぎのとおり行われました。

施設見学学習会実施一覧

開催日	見学施設	参加者数
7.11.29	宮が瀬ダム、青山水源池 城山ダム	31名
7.12.9	南部斎場、女性フォーラム 市民ギャラリー	38名
8.8.28	市民防災センター 東電南横浜火力発電所	35名
8.10.17	江の島かながわ女性センター 秋本食品(株)野菜残渣処理施設	28名



施設見学学習会

